

平成 29 年 7 月実施 生徒による授業評価 まとめ

木曾青峰高等学校

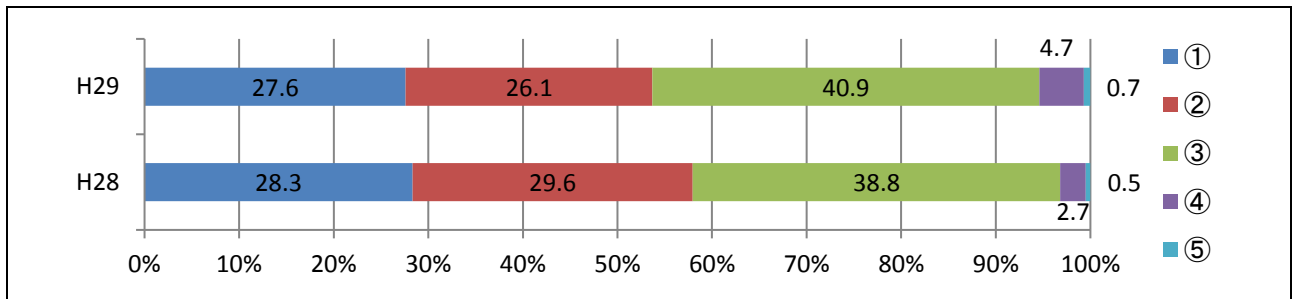
本校では、毎年7月に全生徒に対し、全職員・全講座に関する「授業評価アンケート」を無記名で実施し授業改善に役立てています。今年度も座学用・実習を伴う科目用などのアンケート用紙を作成し実施しました。それぞれのアンケート用紙に6項目の調査項目と記述部分を設けました。

座学用アンケート項目6項目・実習を伴う科目用アンケート共通の3項目の全日制・定時制を合わせた結果は下記の通りです。

単位は全て%、カッコ内は H28 年度

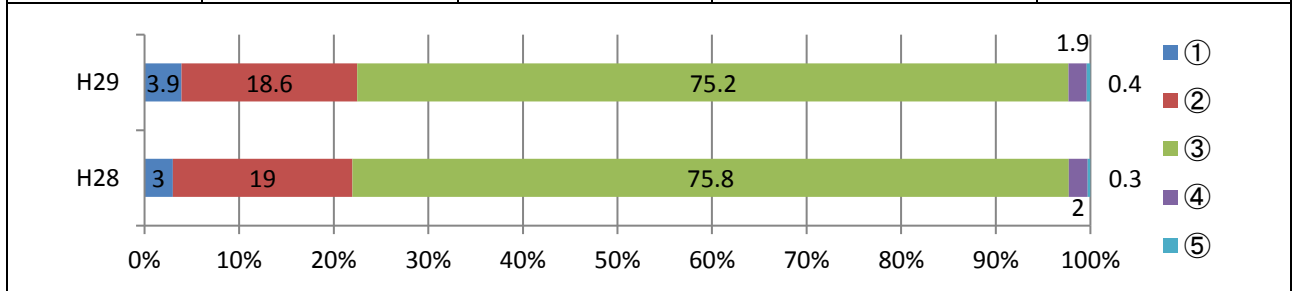
【座学中心の科目用授業アンケート結果】……3518 件

Q 1. 授業に意欲的に取り組んでいますか。				
①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
24.6(27.9)	34.2(36.1)	38.6(33.6)	2.3(2.0)	0.3(0.4)
Q 2. 授業は興味関心や学習意欲を高め、わかりやすく充実したものになっていますか。				
①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
30.0(27.7)	30.1(36.3)	34.5(32.5)	4.4(3.2)	1.0(0.3)
Q 3. 問いかけや小テストなど理解を確かめながら授業が進められていますか。				
①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
27.6(28.3)	26.1(29.6)	40.9(38.8)	4.7(2.7)	0.7(0.5)



Q 4. 授業の難易度は適切ですか。

①難しい	②やや難しい	③ちょうどよい	④やや易しい	⑤易しい
3.9(3.0)	18.6(19)	75.2(75.8)	1.9(2.0)	0.4(0.3)



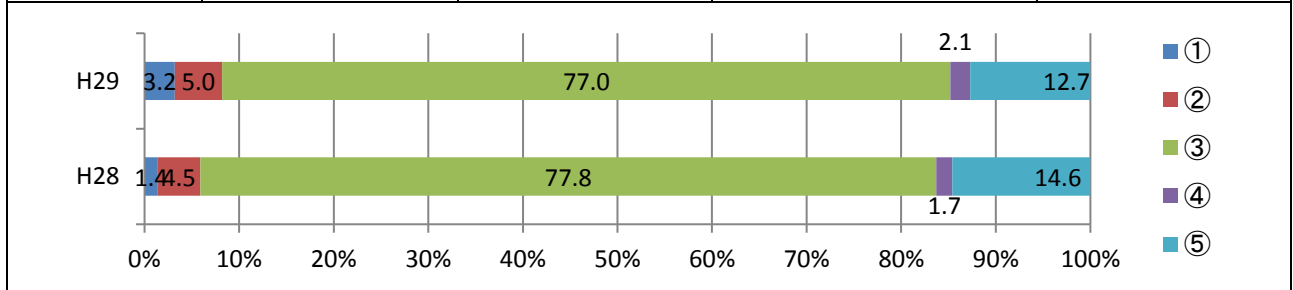
Q 5. 授業の進む速さは適切ですか。

①速い	②やや速い	③ちょうどよい	④やや遅い	⑤遅い
2.8(1.3)	12.1(10.0)	82.0(83.1)	2.8(5.1)	0.3(0.5)



Q 6. 課題の量は適切ですか。

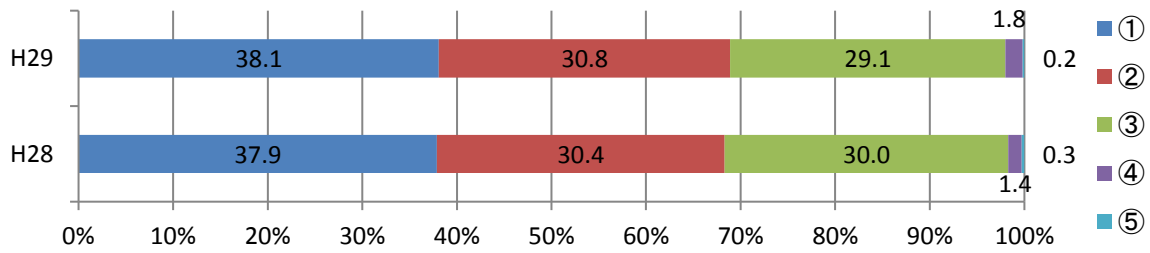
①多い	②やや多い	③適切である	④やや少ない	⑤ない
3.2(1.4)	5.0(4.5)	77.0(77.8)	2.1(1.7)	12.7(14.6)



【実習中心の科目用授業アンケート結果】……1594 件

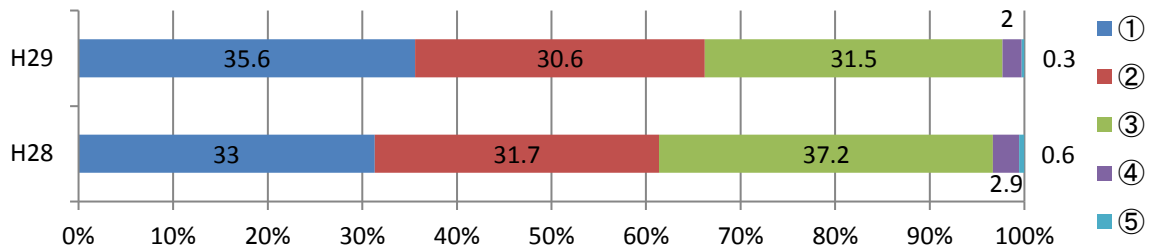
Q 1. 授業に意欲的に取り組んでいますか。

①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
38.1(37.9)	30.8(30.4)	29.1(30.0)	1.8(1.4)	0.2(0.3)



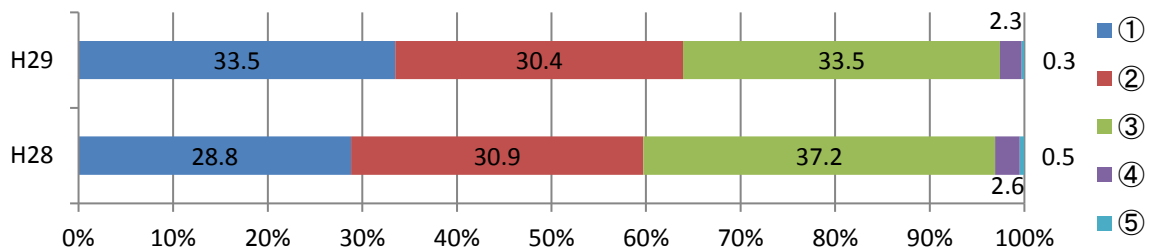
Q 2. 授業は興味関心や学習意欲を高め、わかりやすく充実したものになっていますか。

①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
35.6(33.0)	30.6(31.7)	31.5(37.2)	2.0(2.9)	0.3(0.6)



Q 3. 技術の習得など理解を確かめながら授業が進められていますか。

①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
33.5(28.8)	30.4(30.9)	33.5(37.2)	2.3(2.6)	0.3(0.5)



●全日制 生徒による授業評価 各教科のまとめ

1 分析した内容（教科毎の集計と個人の集計の比較、自由記述から等）

教科	ま と め
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ Q1・Q2・Q3を中心に判断すると、①と②を合わせておおむね6割になる。授業としては良好と思われる。
地歴・公民	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの生徒からは良い評価をうけている。 ・ B科目（日本史B 世界史B 地理B）については、2年次、3年次において「理数科」と「普通科」において同時展開の授業をしている。年度によっては、学力差があり、普通科の生徒から「授業の難易度が高い」という意見も出る。 ・ 生徒が主体的に参加する授業への工夫は永遠の課題である。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・ Q1、Q2で①②の占める割合が昨年と比較すると約10%少なくなり、③が10%増えた。昨年はQ2で①②の割合が高い理由を習熟度別授業の効果であると分析していたが、今年も同様に実施したにもかかわらず割合が下がった。 ・ Q4、Q5では、③が若干上昇した。講座ごとに生徒の状況に合わせて授業を展開できていると考えられる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・ Q1~Q3の解答は全体的に①、②が③へ流れ、一昨年度並の割合になった。 ・ 授業が難しく、進度が速いと感じる生徒の割合が増加した。 <p>これらの原因として以下が考えられる：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度の反省を活かし、より理科の完成を目指した授業へと改善を行ったため。 ・ 2年普通科の講座数が2から1となり、昨年度は20人編成であったところを40人編成で実施することになったため。 ・ 生物、科学と人間生活の実験回数が昨年度より減少したため。
保健体育	<p>〈体育〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意欲的に取り組んでいない生徒の割合が低く、生徒は前向きに授業に臨んでいると推測できる。 ・ 実技の運動量が適していると回答した生徒の割合がもっとも高く、生徒に合わせた授業が展開出来ている。 ・ 全体的に「そう思う・ほぼそう思う」の割合が昨年よりも低下し、普通だと思ふ生徒が多くなった。 <p>〈保健〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意欲的に取り組んでいない生徒の割合が低く、生徒は意欲的に取り組んでいる。 ・ 興味関心や学習意欲を高め、充実した授業になっていると回答（①そう思うと②ほぼそう思う）した割合が60%を越えており、充実したものとなっていると考えられる。 ・ 9割以上の生徒が進度も難易度もちょうど良いと思っている。
芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・ Q1 概ね、昨年度並みの回答。約8割の生徒が「そう思う」「ほぼそう思う」と回答しており、生徒の授業に対する積極的な姿勢が見受けられる。 ・ Q4 昨年度は6割の生徒が「普通」回答しているが、今年度は4割まで減り、「そう思う」と回答した生徒の割合を増やすことができた。 ・ Q6 教員は実技の量が少し多いと感じていたが、9割の生徒が「適切である」と回答している。

<p>外国語</p>	<p>Q1Q2（参加意欲等）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ昨年並み。ほとんどが「そう思う～普通」の回答。 ・「授業に意欲的に取り組んでいるか」の間に対しては昨年度と比べ「そう思う」と回答した生徒はやや減少したがおおむねまじめに取り組んでいる。 ・「学習意欲を高め分かりやすく充実した授業になっているか」に対して、全教科の中で「そう思う」が36%で最高値であることは各担当の努力・工夫によるものかと思う。（前年度比+6%）講座・習熟度別展開やICT利用等が効果的であることの証左かと思う。 ・「学習意欲を高め分かりやすく充実した授業」であるにもかかわらず「意欲的に取り組んで」いる生徒が減っているのは全体的な生徒の意欲の低下を示しているのか？更なる工夫も必要。 <p>Q3Q4(授業理解、小テストなど)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値で見るとあまり明確にならないけれど習熟度別クラス内でも理解不十分な生徒、逆に物足りなさを感じている生徒も居るのではないか（特に専門科。1・2年の理数科でも） ・授業が難しいと回答した生徒がやや増えている。 <p>Q5Q6（進度・課題）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無理の無い範囲で出しているので課題は適切と考えてよいのでは？ ・授業が速い、課題が多いと答えた生徒がやや増えている。 <p>全体を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力も変化しているため、よく生徒を観察し授業改善、教材の選択などを行っていければよい。
<p>家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Q1の授業に対して意欲的に取り組んでいるか、に対しては「そう思う・ほぼそう思う」が62%と3分の2弱を占めていたものの、今後も生徒の意欲を高めるような授業展開を熟考したい。 一方で「あまりそう思わない・そう思わない」は3%で昨年と同じ数字となり、1、2年の必修教科における生徒の学習意欲の向上が課題であると考えられる。 ・Q5の授業の進度を問う質問では、速いと感じている生徒が昨年から微増し、「速い・やや速い」で11%に上ることとなった。授業の中で生徒個人の進度を確認できるときには配慮したいと思う。 ・Q6に実技の量を確認する質問については「少ない・やや少ない」が19%を占めており、実習や実験などを行いたいという生徒の意欲の現われともとれると感じる。
<p>森林環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Type D Q1～Q4については①の評価をする生徒が減少している。 昨年より意欲的に取り組んでいる割合が増えており、好ましい。安全確保についてはアンケートの結果如何に関わらず日々点検し留意する必要がある。
<p>インテリア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Q2は、ほぼそう思うが減少し普通が増加しているところが気になる。それ以外に大きな数値の変動はなく、そう思う・ほぼそう思う・普通又はちょうどよいが大半であり、他教科との差はない。 ・情報の授業ではQ1～3でそう思う・ほぼそう思うが減少し、普通が増加しているところが気になる。 ・実習の授業は2・3年生になると個人での制作が主であるためQ123は昨年と比べ変わりは見られない。実習での安全確保については事故の無いよう毎時間心がけているが、予想外のケガが発生することがあるので、更に注意を促したい。

2 今後の授業で改善したほうがよい点等

教科	ま と め
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・一口に国語といっても、現代文と古典では基本的な中身も違い、学習方法も違う。現代文に比べて、古典は第2外国語に近く、習熟に時間もかかるし、苦手意識も強くなる。センター試験でも個別に見れば一番平均点が低いのは古典であり、本校も同様である。まして受験に必要な講座ではその傾向が強い。考える力を身につけさせる練習として、繰り返し定着させるほかはない。また図書館との連携を考えて進みたい。
地歴・公民	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストの実施、テスト前の課題プリントなどに改善の余地がある。教員間で意見を出し合い、取り組んでいきたい。 ・生徒からは、「どのようにしたら憶えられるか」という質問をうける。授業によってつけさせる「学力」とは何か、考えていきたい。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業の展開だけでなく、興味関心や学習意欲を高める授業行っていく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの授業を見学し合うこと、コメントを出しあうことで、双方の授業改善に繋げたい。 ・実験回数を十分に確保したい。
保健体育	<p>〈体育〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価基準の作成が必要である。 ・小テストの導入を検討する。 ・生徒自身が安全に配慮できるような指導をする。特に施設がかなり老朽化しているため、教員が把握しきれない危険がある可能性が高いためである。 <p>〈保健〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングに対応した授業設計を行う。 ・小テストの導入を検討する。
芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでと同様、知識、技術の定着を確認する場を設定していきたい。 ・自由記述欄には前向きな記述が多かったのも、それに答えられるよう教材研究をしていきたい。 ・割合は数パーセントと少ないが、意欲的に取り組めていない生徒や、難しいと感じている生徒が意欲的に取り組み、知識・技術の習得につながるように、授業を進めていきたい。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容については、単調に進めるのではなく、教材から少し離れてみたり、補足プリントなどを作成したり、音読をしたりと50分にメリハリをつけたい。 ・進度については、講座・個人によって意見が分かれるので、理解の度合いを確認しながら、授業を進めたい。 ・習熟度別ではあっても、やはり講座内の理解度に差が出てくるので、生徒の様子を見ながら進度を調整したい。(ゆっくり進める場合には、理解できている生徒には自学用の追加課題を渡すなど) ・生徒の意欲を高めるような授業展開を工夫したい。 ・ALTの授業を可能な限り増やしたい。 ・生徒が英語を使って行える活動を増やしていきたい。 ・ノウハウ・プリントの共有を学年内のみならず、学年を超えて行う。情報(プリント)として残し、次の学年につなげる。 ・ICT利用をしたいが設備に限りがあるので設置を進めていただきたい。

家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意欲を引き出す、教師側の努力。 ・限られた時間と実習費の中で、必修科目にどれだけ実技を入れられるかも、教師側の力量である。
森林環境	<p>Type D</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林管理技術にインターネットの動画を活用したり、昆虫や植物の分類に情報機器を活用する等、教室や実験室での電子機器の活用を進めたい。専門科棟にも電子黒板を配置して授業進行にあわせ随時生徒にプレゼンテーションを行なわせたい。配置を検討したい。
インテリア	<ul style="list-style-type: none"> ・座学は生徒の理解の差をどのような形でなくしていけるかが必要である。現在行っている、小テストや授業内での工具を使った実演授業などさらなる工夫の必要がある。又、グループ学習等を行い、興味関心を高められればよい。 ・実習系の授業では、自分だけの作品を自信を持って制作させるため、デザインやアイデアを重視したい。 ・インテリアコーディネーター等をはじめとする様々な資格を生徒自らが積極的に取りにいけるような学習環境、呼びかけの体制を整える。

●定時制 生徒による授業評価 各教科のまとめ

1 分析した内容（教科毎の集計、自由記述から等）

<ul style="list-style-type: none"> ・定時制全体で見ると、全般的に「③普通・ちょうどよい・適切である」と回答している割合が多く、特に実習系の授業でその傾向が強く見られる。 ・Q1『あなたは授業に意欲的に取り組んでいますか。』については、座学では97%が「①そう思う」「②ほぼそう思う」「③普通」と回答しており、特に①が11%増加していることから、意欲的な生徒が増えていると分析できる。 ・Q2『授業は興味関心や学習意欲を高め、わかりやすく充実したものになっていますか。』 Q3『問いかけや小テストなど理解を確かめながら授業が進められていますか。』については、ともに「①そう思う」の回答が10%以上増加しており、対象の生徒は毎年変わるので一概には比較できないが、多少は改善されていると思われる。 ・Q4『授業の難易度は適切ですか。』 Q5『授業の進む速さは適切ですか。』 Q6『課題の量は適切ですか。』では、どれも「①難しい・速い・多い」という回答が10～15%程度増加しているが、生徒の取り組みの様子から、目標を一段上に設定した授業になっている傾向があるのかもしれない。生徒の実態に合わせた内容や速さを考えて授業を進めているが、少人数授業でも様々な生徒がいて、いろいろな要望もあるため、難易度や進める速さに一層のバランスが求められている。
--

2 今後の授業で改善したほうがよい点等

<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が興味、関心をもてそうな、わかりやすい教材や、授業の進め方など、今後もさらに研究していく必要がある。

【まとめ】

このアンケートの最大の目的は、授業改善にあります。授業は、生徒と教師が一体となって作るものです。アンケート結果をもとに、年度末に向けすべての講座が、双方にとって有意義となるような授業を作り上げていくよう努力していきます。